

日本都市計画学会

学 会 賞

特別功労表彰 功績賞・国際交流賞

2014年 年間優秀論文賞

受賞一覧ならびに授賞理由書

公益社団法人

日本都市計画学会

# 目 次

## 1. 学会賞

1) 受賞者・受賞作品 .....	1
2) 選考経過 .....	2
3) 授賞理由	
(1) 石川賞 .....	3
(2) 論文奨励賞 .....	5
(3) 計画設計賞 .....	8
(4) 計画設計奨励賞 .....	9

## 2. 特別功労表彰 功績賞・国際交流賞

1) 受賞者 .....	11
2) 選考経過 .....	12
3) 授賞理由	
(1) 功績賞 .....	13

## 3. 2014年 年間優秀論文賞

1) 受賞論文 .....	14
2) 選考経過 .....	15
3) 授賞理由 .....	16

# 日本都市計画学会 学会賞受賞者・受賞作品

(受賞者敬称略)

## <石川賞>

地方都市における都市計画研究の蓄積・体系化と地方自治体での実践展開

長岡技術科学大学副学長 中出 文平

タイ王国への土地区画整理技術移転とその自立的発展

国土交通省都市局、独立行政法人国際協力機構、タイ王国内務省公共事業・都市計画局、  
バンコク首都圏庁、JICA 長期専門家グループ (代表 明星大学教授 木下 瑞夫)

「ヨコハマ市民まち普請事業」による地域まちづくりの取り組み

横浜市

## <論文奨励賞>

東京都心部におけるマトリクス構造を基盤とした熱・風環境評価に基づく都市環境計画に関する研究

名古屋大学大学院 高取 千佳

AN INSTITUTIONAL ANALYSIS OF THE DYNAMICS OF COLLABORATIVE METROPOLITAN GOVERNANCE IN THE PROCESS OF DECENTRALIZATION: A CASE OF INDONESIA

国連大学 Okitasari Mahesti

旧軍用地転用に係る都市計画に関する一連の研究

長崎大学 今村 洋一

既成市街地の漸次的な低炭素化を支援する街区群の環境性能評価システム

大日本コンサルタント (株) 森田 紘圭

敷地形状と建物棟数密度及び道路延長密度に関するモデル分析

—敷地—建物の原則及び格子状の道路網パターンに基づいて—

国土交通省 薄井 宏行

災害常襲地域における生活防災の構造と実践手法に関する研究

(公財) ひょうご震災記念 21 世紀研究機構 石原 凌河

市場経済移行期の社会主義国における都市計画制度改善プロセスに関する研究

—ベトナムにおける適用状況を中心として—

(株) 日建設計総合研究所 松村 茂久

街路空間整備を通じた交通安全対策手法の開発に関する研究

福岡大学 吉城 秀治

Re-examining the Built Environment-Travel Behavior Connection: A Case Study of Japanese Cities

東京大学 Troncoso Parady Giancarlo

## <計画設計賞>

福島県二本松市竹田根崎竹根通り沿道地区の景観まちづくり

竹田根崎まちづくり振興会議

北彩都あさひかわにおける調整型都市デザインの実践

旭川市、(株) 日本都市総合研究所 加藤 源、(株) 日本都市総合研究所 高見 公雄  
東京大学名誉教授 篠原 修、PWWJ オフィス ウィリアム ジョンソン

日本橋室町東地区における伝統的街区及び街路を基盤とした都市再生

共同建替事業者代表 三井不動産 (株) 代表取締役社長 菰田 正信  
日本橋室町東地区マスターアーキテクト 團紀彦建築設計事務所代表 團 紀彦  
統括設計 (株) 日本設計 神林 徹

## <計画設計奨励賞>

時代に応じた地域評価システム EvaCva(エヴァシーヴァ)の開発

(株) 富士通研究所 R&D 戦略本部環境科学技術プロジェクト

## 日本都市計画学会

### 学会賞 選考経過

2014 年度学会賞は、会員が推薦した石川賞候補 6 件、論文賞候補 1 件、論文奨励賞候補 18 件、計画設計賞候補 1 件、計画設計奨励賞候補 1 件、計 27 件が審査の対象となった。

表彰委員会（学会賞選考分科会・委員全 17 名）は各々の候補の業績について複数の担当審査委員が独立に査読および調査を実施し、各委員から提出された評価にもとづき、分科会で慎重に検討の結果、授賞候補を選定した。

特に評価の分かれた案件については委員会席上でその結果を照合、討論、協議し、分科会の最終審査結果とした。さらに分科会の審査結果を理事会に諮って、石川賞 3 件、論文奨励賞 9 件、計画設計賞 3 件、計画設計奨励賞 1 件の授賞を決定した。

---

#### (参考)各賞の授賞対象

##### 石川賞

都市計画に関する独創的または啓発的な業績により、都市計画の進歩、発展に 顕著な貢献をした個人または団体を対象とする。

##### 論文奨励賞

都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文を最近（過去 1 年以内）発表した会員（個人）を対象とする。

##### 計画設計賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年（概ね過去 3 年以内）の作品で、都市計画の進歩、発展に顕著な貢献をしたものを対象とする。

##### 計画設計奨励賞

都市計画に関する計画、設計、事業などに関する近年（概ね過去 3 年以内）の作品で、将来性・発展性のある優れたものを対象とする。

石川賞	
受賞者	中出 文平（長岡技術科学大学副学長）
作品名	地方都市における都市計画研究の蓄積・体系化と地方自治体での実践展開
授賞理由	<p>中出文平氏は、「都市計画研究の蓄積」、「都市計画学会活動への貢献」、「地方自治体における実践」に関してそれぞれ多大な業績をあげてきた。</p> <p>とりわけ、「都市計画研究の蓄積」は、学術論文（査読付き論文）の都市計画学会誌への掲載累計は他に例を見ない100報（大会論文90報、一般研究論文8報、国際都市計画シンポジウム（Proceedings）2報）に上り、その他、学術的著作も数多く発表している。これらの30数年におよぶ蓄積は、主に「住工混在地域に関する研究」を起点として、「地方都市を中心とした土地利用制度に関する一連の研究」を中心に、「地方都市の郊外化を現象面から捉えた研究」、「地方都市の構造的課題を取り上げた研究」に整理できる。一貫して地域に寄り添いながら、理論的な知見を引き出すための綿密な調査がなされており、これらの調査から導かれる結論や示唆は、我が国の地方都市に関する都市計画研究の礎となってきた。また、これらの論文やその研究を成立させるための学生等への指導、都市計画研究者の育成、都市計画学会活動の取組などは、都市計画の発展に大きく貢献するものとなっている。</p> <p>他方、中出氏は、これらの研究・教育活動と呼応して、長岡市をはじめとして、区域区分等の運用、都市計画マスタープランの策定、中心市街地活性化など地方都市における都市計画の実践に尽力し多くの優れた成果をあげている。</p> <p>このように、中出氏は、地方都市における都市計画研究の蓄積・体系化と地方自治体の実践展開に優れた業績をあげ、都市計画の進歩・発展に多大な貢献をしてきたと認められるので、日本都市計画学会石川賞の授賞に値すると判断した。</p>

石川賞	
受賞者	国土交通省都市局、独立行政法人国際協力機構、タイ王国内務省公共事業・都市計画局 バンコク首都圏庁、JICA 長期専門家グループ（代表 明星大学教授 木下 瑞夫）
作品名	タイ王国への土地地区画整理技術移転とその自立的発展
授賞理由	<p>この取り組みは、わが国が25年以上にわたって、タイ王国へ土地地区画整理技術の移転協力を継続的に実施し、その自立的発展に寄与したものである。その概要は、まず日本の支援を受けて1992年にタイ王国で日本の土地地区画整理技術導入の必要性が認められ、2004年にタイ土地地区画整理法が制定されるに至った。その後、各所で事業化が進められ、2014年2月末現在で12地区が事業認可され、8地区が認可準備中で、現在大きな広がりを見せている。</p> <p>技術移転の基本的な仕組みとしては、タイ王国内務省公共事業・都市地方計画局及びバンコク首都圏庁に対し、国土交通省都市局と独立行政法人国際協力機構（JICA）の協力のもと、延べ26名のJICA長期専門家が派遣され、制度紹介から法制定支援、技術マニュアル・ガイドラインの制定が根気強く進められた。特に、日本の都市計画技術をシステムとして海外に移転したケースとして、その内容としても、スケールから見ても最大のものであり、文化や社会システムが異なる中で、日本の都市計画技術の優位性および汎用性を示すことができた事例として特筆すべきものである。</p> <p>また、県ごとのパイロット事業導入や日本でのJICA研修への派遣など、技術定着のための様々な工夫も随所で重ねられている。このような工夫を通じ、現地での新たな技術者育成を通じ、その自立的発展を遂げる道筋をつけたことは海外貢献の取り組みの有り方として一つの模範を示すものであり、特に高く評価される。</p> <p>このように、本取り組みは関係者の類まれなる継続的な努力と創意工夫を通じ、わが国の都市計画技術をタイ国内のニーズに応じた形で広く移転・定着させるという顕著な業績をあげたもので、国際的な広がりの中で都市計画の進歩・発展に多大な貢献をしてきたといえる。以上のことから本取り組みは日本都市計画学会石川賞の授賞に値すると判断した。</p>

石川賞	
受賞者	横浜市
作品名	「ヨコハマ市民まち普請事業」による地域まちづくりの取り組み
授賞理由	<p>本事業は、地域の身近な公共空間や私有地を市民自らが整備、運営、維持管理する提案を募集し、その整備費を助成する、横浜市独自の制度である。横浜市の長年にわたる都市デザイン活動の一環として進められた「市民まちづくり」の取り組みの流れを汲むもので、市職員の事業提案から生まれた。本事業は、市民が地域に、より愛着を持てるまちづくりを目指しており、市民の創意工夫が十分に発揮できるよう、整備場所、整備のテーマ・内容などを全く限定しない、自由度の高い制度設計となっている。2005年に創設され、2014年までに38カ所の整備事例の実績があり、現在でも、毎年、予定件数の倍以上の提案の応募がある市民ニーズの高い事業である。</p> <p>2回の公開コンテストを経て選考された提案に対して、最大500万円の整備費を助成するものであるが、コンテスト通過をめざした活動自体が地域コミュニティづくりを推進し、ソフト面も含めた魅力向上に資する整備内容になった時に、コンテストの通過が望める仕掛けになっている。整備後は、住民自らが整備したことで生まれる愛情や愛着心により、心のこもった運営や維持管理がなされていく。こうして、物的な再生だけでなく人と人の繋がりの再生も育み、住民の主体的な取り組みが広がっていくとともに、事業コストの縮減、参加型社会の実現が図られるコストパフォーマンスの高い公共事業でもある。</p> <p>以上のように本事業は市民主体の都市計画を体現するものとして大きな成果を挙げ、今後の新たな公共事業のあり方を示唆する独創的・画期的なものであると高く評価できることから、日本都市計画学会石川賞の授賞に値すると判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	高取 千佳
作品名	東京都心部におけるマトリクス構造を基盤とした熱・風環境評価に基づく都市環境計画に関する研究
授賞理由	<p>本論文は、都市のフィジカルなデータを用いた熱・風環境の解析に基づき、自然共生をめざした都市環境計画の基礎となる方法論構築を行っており、新規性、実用性などの面から学術的、社会的貢献度が高い。具体的には以下の点が評価できる。東京都心部を対象に、明治初期と現代の微地形や土地被覆に関する詳細なデータをデジタル化・整備して、その変容過程を定量的に解明したこと、広範囲・高解像度の熱・風シミュレーションを実施・分析し、上空部と地上付近の熱交換関係の変化が影響していることを明らかにするなど、ヒートアイランドの研究に新たな知見を提示していること、これらの成果に基づき、熱・風環境評価図を作成し、また緑地の保全・修復・創造の指針図を作成して、都市環境計画の具体的な施策展開を示したことである。</p> <p>以上より、定性的、感覚的に理解されている事象を科学的に立証するための方法論と分析結果は、非常に優れた研究成果として高く評価でき、本研究は日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	Okitasari Mahesti
作品名	AN INSTITUTIONAL ANALYSIS OF THE DYNAMICS OF COLLABORATIVE METROPOLITAN GOVERNANCE IN THE PROCESS OF DECENTRALIZATION: A CASE OF INDONESIA
授賞理由	<p>本論文は、大都市圏の地域ガバナンスに関する既往研究を丹念に整理して、研究の理論的基礎を固めた後、独自の評価枠組みを構築した上で、詳細な事例調査を実施・検討することにより、インドネシアの大都市圏における地域ガバナンス間の協働の実態に関する定量的・定性的分析を行い、協働に影響を及ぼす要因を分析し、諸制度及び関係主体を通じて形成された制度的特性が協働ガバナンスにおいて有する意義を明らかにしており、研究の進め方として適切である。</p> <p>また、先進国で形成された理論・知見を形式的に現地に適用するのではなく、インドネシアの実態に即してモデル化して検討している点で、説得力がある。</p> <p>さらに、実態の分析と評価にとどまらず、今後の改善に向けた提言も大都市圏ごとに具体的かつ詳細に示しており、研究成果の有用性が高い。従って、都市計画に関する将来性・発展性が顕著な研究論文であり、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	今村 洋一
作品名	旧軍用地転用に係る都市計画に関する一連の研究
授賞理由	<p>本研究は、佐世保市を事例に戦災復興計画での旧軍用地の位置づけと公園の計画・整備面への影響及び旧軍港市転換計画等により旧軍用地転用を主体に立案された都市計画の特質を、また名古屋市等における旧軍用地の学校への転用経緯及び戦後の都市構造再編に与えた影響並びに転用による文教市街地の形成実態を、明らかにしたものである。</p> <p>旧軍用地転用に係る都市計画を包括的に扱い、転用の計画と実態の両面で捉えている着眼点に新規性があり、多くの事例を詳細に調査・多様な視点から分析している点で、資料的な価値が高い研究成果であると認められる。また、旧軍用地の転用の解析により提示された都市計画での遊休地の戦略的活用の重要性の視点は、市街地縮小時代を迎えた中で、今後の都市計画及び関連研究の発展に有益な示唆を与えるものであることから、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	森田 紘圭
作品名	既成市街地の漸次的な低炭素化を支援する街区群の環境性能評価システム
授賞理由	<p>低炭素都市の実現に向けて、都市づくりの中での取組がますます重要となっている。中でも既成市街地の改善・再生に対応した低炭素施策は不可欠である。</p> <p>本論文は、既成市街地の環境評価について、土地利用、交通システムなど総合的な視点から取り組み、街区群の環境性能を環境、社会、経済のトリプルボトムラインから分析する方法を開発している。それをを用いて名古屋都市圏の3つの異なる街区群でケーススタディを行って、その有用性を示している。特に、街区単位の環境負荷削減は急には実現できないため、時系列での定量評価を行い、それを可視化している点は高く評価できる。また、本研究の知見が名古屋市の「低炭素モデル事業」に活用されている点も評価できる。実務的にも今後の都市環境政策を行う上での知見が多く含まれている。よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	薄井 宏行
作品名	敷地形状と建物棟数密度及び道路延長密度に関するモデル分析 —敷地—建物の原則及び格子状の道路網パターンに基づいて—
授賞理由	<p>本論文は、我が国の都市空間の特徴である「隙間」に着目し建物密度及び道路密度と敷地形状との関係を解析的に導出している。主たる成果として、第一に、敷地間口は建物棟数密度に反比例し道路延長密度に関して上に凸の二次関数となること、第二に、敷地奥行は建物棟数密度とは独立の関係だが道路延長密度の凸関数となることを導出した。最初に主たる結論を示し、続く章にて、正方格子状地域、一敷地—建物、敷地の間口と奥行ききの独立性、これらの仮定の妥当性を検証する姿勢は健全である。建物密度や道路密度と敷地形状の基本的性質を解明した既存の解析研究は少なく、縮小時代を迎えた我が国において、空き地や空き家問題、道路維持管理問題に関しても理論的示唆を大いに与える。また、研究目的に照らし合わせてノンパラメトリック分析や積分幾何学など都市計画分野では必ずしも標準的では無い技法を的確に駆使したことも高く評価できる。よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	石原 凌河
作品名	災害常襲地域における生活防災の構造と実践手法に関する研究
授賞理由	<p>本論文は、これまで理論的に扱われてこなかった「生活防災」に着目し、その構造と、地域生活・防災まちづくりにおける意義を明らかにした意欲的な論文である。徳島県阿南市の地域の人々との実践的な調査研究を通して、ソフトの防災対策における理論的な枠組みをその実践手法も含めて構築したことに意義がある。</p> <p>各地の「災害伝承」は地域防災に有意義ではあるが、災害の種類や規模で内容も異なり、それだけでは想定外の災害に万能には対応できない。本論では、アンケート調査とその分析により、多様な「災害伝承」を日常の「生活防災」の実践として捉えることで、環境や福祉、文化形成も含む地域生活と防災を総合的に向上できることを実証したことは大変意義深い。</p> <p>また、「生活防災」を学校教育や地域生活の中でひろめる防災教育教材の開発、記録と普及啓発に資する「災害教訓誌」作成など、研究成果を実践的に活用する成果も、他地域での研究・実践に活用することが期待される。</p> <p>以上のことから、本論文は日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>



論文奨励賞	
受賞者	松村 茂久
作品名	市場経済移行期の社会主義国における都市計画制度改善プロセスに関する研究 -ベトナムにおける適用状況を中心として-
授賞理由	<p>この論文は、都市化が進むベトナム・ホーチミン市を主たる事例として、市場経済へ移行過程にある社会主義国の都市計画制度改善プロセスを、市場経済化、グローバリゼーション、地方分権化の3つの要素から論じたものである。</p> <p>資料やデータなどの必要な情報の収集が難しい研究対象フィールドにおいて、都市計画法制度やマスタープランの整理とそこからの課題抽出、現地でのヒアリング、GISも含めたデータ分析など、地道な作業を丁寧に行って考察を進めていることは、研究に対する姿勢も含めて非常に高く評価できる。さらに、資料的価値も高く、この研究を土台にした研究の発展性も大いに期待できる成果である。また、開発が急激に進むベトナムは、都市インフラ輸出も含めて、わが国研究者等の関心が非常に高い国であり、時宜を得た本研究の意義は大きいと言える。</p> <p>よって本研究は、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	吉城 秀治
作品名	街路空間整備を通じた交通安全対策手法の開発に関する研究
授賞理由	<p>本論文は、街路空間、道路交通の関係に基づいた交通安全対策手法の実践にかかる考え方をまとめた論文である。自動車運転者の挙動にかかる分析、歩行者と自動車との関係の分析、出雲市における地区交通安全対策の実践についての評価分析が盛り込まれており、都市計画における道路交通分野の研究としてはきわめてバランスがとれているといえる。そして、統計的分析手法、アンケート調査に基づいた解析手法、交通工学的な分析手法、現地での実践データのとりまとめ方、についてもバランスよく取り上げられている。さらに、地域での合意形成や費用面まで踏み込んで現状に配慮した実践と連携していること、その実践結果が地域に肯定的に受け入れられていること、など、論文の成果の社会への貢献度は大きいといえる。これらの点より、本論文は、研究内容に優れ、将来の発展性も大きいと考えられるので、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

論文奨励賞	
受賞者	Troncoso Parady Giancarlo
作品名	Re-examining the Built Environment-Travel Behavior Connection: A Case Study of Japanese Cities
授賞理由	<p>本論文は、都市の物的環境と交通行動の因果関係の存在に関して、既存研究の問題点を整理した上で、GIS データを活用した物的環境指標を提案するとともに新たな分析手法を用いて分析し、それらの有用性を実証したものである。特に、統計的に有意な関係が存在することを複数の都市のデータで示すとともに、推計パラメータのバイアスがどの程度削減できるかを示すなど、丁寧な分析を行っている。</p> <p>物的環境が交通行動に与える影響の分析は都市交通計画の重要テーマであるが、本論文はこの分野の学術的発展に大きな可能性を示すものである。また、拠点と交通ネットワークを統合した望ましい都市構造とは何かを論じる方向への発展性を有するものと言える。</p> <p>以上より、本論文は拠点整備と交通ネットワークを考える上で重要な知見を示しており、日本都市計画学会論文奨励賞に相応しいと判断した。</p>

計画設計賞	
受賞者	竹田根崎まちづくり振興会議
作品名	福島県二本松市竹田根崎竹根通り沿道地区の景観まちづくり
授賞理由	<p>本作品は、福島県道「竹根通り」の拡幅整備計画を契機として発足した「竹田根崎まちづくり振興会議」が中心となる、20年近くにわたるボトムアップ型景観まちづくりの取組が結実したものである。</p> <p>当地区では、景観シミュレーションによるワークショップなどを開催し、「ほんとの空とお城山が美しく見える景観づくり協定」を締結し、その後振興会議内に設置された「まち並み委員会」が、協定に基づくデザイン協議を110回以上繰り返すことで、城下町に相応しい落ち着いた意匠など、ゆるやかなルールのもと、住民個々の意向や個性を尊重した調和のある町並みを生み出している。この成果は「NPO法人たけねっと」、「NPO法人桑原さん家」などの住民まちづくり活動との連携や、早稲田大学と芝浦工業大学の研究者と学生、二本松市と福島県関係者の長年の支援に負うところも大きい。</p> <p>東日本大震災と原発事故による被害とその影響が続く福島県内、二本松市内にあって、「竹根通り景観づくり」は、美しい景観づくりの先に、まちの復興と暮らしの再生の希望を示していることに深い意義がある。よって本作品は、日本都市計画学会計画設計賞に値すると判断した。</p>

計画設計賞	
受賞者	旭川市、(株)日本都市総合研究所 加藤 源、(株)日本都市総合研究所 高見 公雄、東京大学名誉教授 篠原 修、PWWJ オフィス ウィリアム ジョンソン
作品名	北彩都あさひかわにおける調整型都市デザインの実践
授賞理由	<p>「北彩都あさひかわ」は、旭川駅周辺の旧国鉄跡地 80ha を中心とする、鉄道高架化、河川空間整備、3本の新設架橋等が一体的総合的に進められた都心の再興に向けた大規模なまちづくりである。</p> <p>本地区において多種の都市基盤施設整備と街並み形成を総合的に捉えた都市デザインを実践するため複数のプランナー、デザイナーが参加したが、トータル・コーディネーターとして中心的にその役割を果たしたのが、民間都市プランナーの加藤源氏である。こうした体制の下で、100haを超える非常に大きなスケールのランドスケープを日本、アメリカのランドスケープ、プランニング、行政の専門家が一緒に考え、計画し、実践することにより、様々なプロジェクトを有機的に結ぶランドスケープからの街づくりが可能となり、北の大地でデザイン性の高い自然環境と融合した都市空間の具現化を実現しており、コーディネートすることの大事さを知らしめてくれる作品といえる。</p> <p>以上のことより、本作品は日本都市計画学会計画設計賞に値すると判断した。</p>

計画設計賞	
受賞者	共同建替事業者代表 三井不動産(株)代表取締役社長 菰田 正信 日本橋室町東地区マスターアーキテクト 團紀彦建築設計事務所代表 團 紀彦 統括設計 (株)日本設計 神林 徹
作品名	日本橋室町東地区における伝統的街区及び街路を基盤とした都市再生
授賞理由	<p>江戸時代より町人地の中心として栄えてきた日本橋室町東地区における都市再生のプロジェクトは、東京都心部における多くの再開発事例がある中、同地区の近世からの伝統を踏まえ、都市機能の更新を実現させた都市再生のモデルとなり得る取り組みと言える。</p> <p>その特徴としては、格子状街区の形態と規模を踏襲しつつ、変化に富んだ公共的空間や既存街路を介して周辺街区とつなげるヒューマンスケールに配慮した街路再生型の再開発を実現させた点や、低層階に日本橋界隈の老舗を含む伝統的な個店群を配置し、地区のシンボルでもある神社の保存にも取り組み、歴史文化の継承にも配慮した点などが挙げられる。</p> <p>本プロジェクトは、構想期間から長期にわたる複雑なプロセスをマネジメントする一方で、高容積開発でありながら全体として調和のとれた沿道型のまちなみ景観形成と町人地としての伝統の保全再生に寄与するアーバンデザインを実現させており、日本都市計画学会計画設計賞に値すると判断した。</p>

## 計画設計奨励賞

受賞者	(株)富士通研究所 R&D 戦略本部環境科学技術プロジェクト
作品名	時代に応じた地域評価システム EvaCva(エヴァシーヴァ)の開発
授賞理由	<p>本作品は、ネット上で自治体の地域特性を簡便に見える化できる新たなシステムで、全国の自治体すべてを対象に、各種のオープンデータを網羅し、独自に指標を選びながら、計画上の判断に必要な情報を瞬時に提供するものである。任意の複数自治体間の比較や評価指標の入れ替えを舜時に実行できるようになっており、また特定施設の適地選定、都市の価値や環境負荷の定量評価にも使えるシステムとなっている。</p> <p>都市計画担当者はもとより誰にでも使いやすいシステムであり、研究・教育ツールとしても有用であると認められる。各種指標の評価方法等に関する研究成果面では未だ発展途上にあるが、無償で社会に提供されている点は特筆に値する。</p> <p>今後の経済・社会・環境の政策動向やニーズに対応し、ITCを活かした新たなインフラとして更なる進化が期待でき、都市計画の進歩・発展を図る上での将来性に高いものがあることから、日本都市計画学会計画設計奨励賞に相応しいと判断した。</p>



日本都市計画学会 特別功勞表彰 功績賞・国際交流賞受賞者

(受賞者敬称略)

<功績賞>

佐藤 誠治 大分大学名誉教授・まちづくり研究所主宰

## 日本都市計画学会

### 特別功労表彰 功績賞・国際交流賞 選考経過

2015年日本都市計画学会特別功労表彰 功績賞・国際交流賞は、理事・監事・会長アドバイザー会議メンバー各位に候補者の推薦を募ったところ、功績賞候補者1名の推薦があった。これを受け、表彰委員会（特別功労表彰選考分科会・委員全10名）が慎重に検討した審査結果を理事会に諮って、功績賞1名の授賞を決定した。

---

#### (参考)功績賞の授賞対象

##### 功績賞

長年にわたって、都市計画学の進歩、発展に寄与してきた者で、その貢献が、社会的、学問的に見て顕著な者を対象とする。

## 功績賞

### 受賞者

佐藤 誠治（大分大学名誉教授、まちづくり研究所主宰）

### 授賞理由

佐藤誠治氏は1975年に本会入会后、会員として都市計画に関する学術研究に従事し、都市計画学会論文集において23編、その他国際会議等と合わせて141編の審査付き学術研究論文を発表した。本会運営等においては、評議員2期・理事1期・九州支部長1期を務めている。

この間、都市計画を通じた地域に対する貢献として1981年に大分大学赴任後、大分県内の各地のまちづくりに積極的に関わり成果を上げた。特に平成2年に策定された大分地域商業近代化計画において、大分市中心部の都市整備で推進される3つの主要事業について提案執筆し方向性に道を開いた。そして以後の大分県立病院跡地整備基本構想、大分駅高架および大分駅周辺総合整備事業、大分都心南北軸整備事業の推進において重要な役割を果たした。同時に、中心市街地に関する各種調査や大分駅周辺区画整理地区における景観保全の立場からの地区計画において景観シミュレーションなど都市計画に関する研究調査活動をもとにした都市計画事業における実務上の貢献を行っている。また、都心南北軸整備における住民参加型ワークショップを多数回開催した。さらに研究室のサテライトとして「大分大学まちなか研究室」を中心部に設置し、子供から高齢者まで広い年齢層を招いたまちづくりの学習会・ワークショップを開催して市民とのまちづくり経験の重要性を市民と共有するなど、研究現場と市民の距離を縮め、民と学のコラボレーションを行った。

これらの活動によってもたらされた知見はとくに地方都市の都市計画・中心市街地の活性化と再生の推進において有用な知見をもたらしている。これらの事業の進捗による相乗効果が大分市中心部の活性化・再生に寄与している。佐藤氏はこの間大分県都市計画審議会会長、大分市都市計画審議会会長をはじめとして、行政委員会委員を多数務めており、学術研究とそれに基づく都市計画の実践において功績は顕著であり、ここに日本都市計画学会功績賞を授与するものである。

# 日本都市計画学会 2014 年年間優秀論文賞受賞論文

(受賞者敬称略)

「拠点へ集約」から「拠点を集約」へ -安易なコンパクトシティ政策導入に対する批判的検討-

肥後 洋平・森 英高・谷口 守

活動欲求を考慮した離散-連続モデルによる小滞在発生メカニズムの分析

大山 雄己・福山 祥代・羽藤 英二

神戸市河川沿緑地の形成とその構想の起源 -古宇田實の水害復興構想とその戦災復興への影響-

山口 敬太・西野 康弘

佐世保市における旧軍用地の転用計画について -戦災復興計画と旧軍港市転換計画を対象として-

今村 洋一・川原 大輝

連邦・州政府の支援を活用した自治体のブラウンフィールド再生戦略に関する研究

-米国マサチューセッツ州 Lowell 市を事例として-

黒瀬 武史・西村 幸夫

カナダの大規模公共住宅団地の再生に関する研究

-トロント市リージェント・パーク団地の再々開発を事例として-

藤井 さやか

北海道殖民都市における『山当て』の実態に関する研究 -後志地方の 6 町村を対象として-

久保 勝裕・安達 友広・菅野 圭祐・佐藤 滋

地方都市における大規模土地所有者の所有実態と土地活用意識に関する研究

-福井市まちなか地区を対象として-

福岡 敏成・野嶋 慎二

朝鮮市街地計画令と台湾都市計画令の特長に関する研究

五島 寧

福岡市におけるフードデザート問題の分析

鳥海 重喜



## 日本都市計画学会

### 2014 年 年間優秀論文賞 選考経過

2014 年年間優秀論文賞は、当該年の 1 月から 12 月に発表された、発表会論文 148 編・一般研究論文 25 編、計 173 編の中から優れた内容を有する論文を学術委員会にて慎重に検討を重ね、授賞候補を選定した。さらに候補選定結果を理事会に諮って、10 編の授賞が決定した。

---

#### (参考)表彰対象

##### 1. 表彰対象

論文

##### 2. 表彰のための選考対象となる論文

表彰当該年の 1 月から 12 月に発表された発表会論文及び一般研究論文

論文名	「拠点へ集約」から「拠点を集約」へ -安易なコンパクトシティ政策導入に対する批判的検討-
著者	肥後 洋平・森 英高・谷口 守
授賞理由	本研究では、全国の様々なタイプの都市を対象に拠点の設定実態を把握し、都市サービス施設の集積状況を分析し、都市のコンパクト化政策に対する知見を得ている。本研究は「拠点をどう集約するか」に着目している点の特徴である。評価できる点は、1)明確な問題意識に基づき、適切な論旨で論文が構成されている点、2)研究目的を達成するために的確な分析方法を用い、明快な分析結果を得ている点、3)緊急性、適時性の高い課題に取り組み、都市政策に適用できる有用な結論を得ている点、4)今後のコンパクトシティに関する研究展開に多くの示唆を与えている点あげられる。

論文名	活動欲求を考慮した離散-連続モデルによる小滞在発生メカニズムの分析
著者	大山 雄己・福山 祥代・羽藤 英二
授賞理由	本論文は、広場や街路などの公共空間における人々回遊行動を分析するため、小滞在が連鎖的に生じるような滞在時間の長い回遊行動を促す方策を提案している。評価できる点としては、第一に、個人の活動欲求に着目した活動発生モデルを誘導型の離散-連続モデルである Tobit モデル (Type II) に応用することによって、小滞在などの活動の連続で構成される複雑な回遊行動をモデル化していること。第二に、構築したモデルをプローブパーソンデータによって推定することによって得られた結果から、回遊行動を促す方策につながる示唆に富む結論が得られている点である。

論文名	神戸市河川沿緑地の形成とその構想の起源 -古宇田實の水害復興構想とその戦災復興への影響-
著者	山口 敬太・西野 康弘
授賞理由	本研究は、阪神大水害からの神戸市復興計画に専門家として携わった古宇田實に着目し、神戸市河川沿緑地計画の当初の構想と、戦災復興事業との連続性を、神戸市復興委員会の議事録をはじめとする関連史料をもとに詳細に明らかにしたものである。評価出来る点としては、第1に、丹念に史料を読み解いた上で、当時の計画をめぐる議論が具体的に整理されている点、第2に、阪神大水害の復興計画に起源をもつ河川沿緑地計画が戦災復興計画に影響を及ぼしていることを立証した点である。

論文名	佐世保市における旧軍用地の転用計画について -戦災復興計画と旧軍港市転換計画を対象として-
著者	今村 洋一・川原 大輝
授賞理由	本論文は、旧軍港市のなかでも最も多くの旧軍用地が残された都市である佐世保市を対象として、戦災復興計画および旧軍港市転換計画を精査し、旧軍用地に与えられた位置づけを論考したものである。評価できる点としては、第一に、緻密な史料・文献調査に基づいて、旧軍用地の分布範囲・立地・軍用地時の用途を丁寧に整理していることであり、このことが精度・信頼性の高い知見の提示を可能にしている。第二に、両計画における軍用地の位置づけの相違や他都市における計画の運用状況との違いを明らかにしており、都市計画史に対して有益な示唆を得ている点が挙げられる。

論文名	連邦・州政府の支援を活用した自治体のブラウンフィールド再生戦略に関する研究 -米国マサチューセッツ州 Lowell 市を事例として-
著者	黒瀬 武史・西村 幸夫
授賞理由	本論文は、事業着手から 20 年を経た事例で、自治体が行った BF 地区の再生の実態を分析した上で、その再生戦略と公的支援の役割を論じたものである。評価出来る点は、自治体の戦略は明文化されていないものもあり、論文化するのは難しいことも多いなかで、2006 年、2012 年の間隔を空けた 2 度の現地調査・ヒアリングにより、丁寧に事業の経緯や土壌汚染の実態と対応を追い、自治体の取り組みの戦略性を把握しようとしている点である。また、米国の複雑なブラウンフィールド再生政策に関する整理も秀逸であり、日本の同様の地域の再生に役立つ論文であると評価したい。

論文名	カナダの大規模公共住宅団地の再生に関する研究 -トロント市リージェント・パーク団地の再々開発を事例として-
著者	藤井 さやか
授賞理由	本論文は、荒廃が顕著であった公共住宅団地において、ソーシャル・ミックスによる団地再生を進める北米の事例であるカナダのトロント市リージェント・パーク団地について、再々開発プロジェクトの実態と課題を扱った論文である。評価できる点としては、今回対象としているリージェント・パーク団地について、これまでの研究レビューとともに、開発者及び行政の計画資料、関係者や専門家へのインタビューをもとに、丁寧に緻密な調査を実施し、再生計画の概要や変更の経緯を整理・評価をおこない、資料的な価値が高いと考えられる点が挙げられる。

論文名	北海道殖民都市における『山当て』の実態に関する研究 -後志地方の6町村を対象として-
著者	久保 勝裕・安達 友広・菅野 圭祐・佐藤 滋
授賞理由	本論文は、北海道の羊蹄山周辺の殖民都市6町村を対象に、都市計画、農耕グリッド形成と山当て道路について、計画史料と現地踏査から現状を分析し、起点、視対象となる山、都市計画グリッドなどを定義し、12本の山当て道路と市街地の現況を確認した論文である。評価できる点としては、第一に、山当て道路と農耕グリッドを丁寧に現地踏査し、実態を的確に分析している点があげられる。第二に、基礎的なデータを、歴史的資料に照らし精緻に分析している点があげられる。

論文名	地方都市における大規模土地所有者の所有実態と土地活用意識に関する研究 -福井市まちなか地区を対象として-
著者	福岡 敏成・野嶋 慎二
授賞理由	本研究は、大規模土地所有者の所有実態や土地活用に向けた意識を明らかにし、地方都市中心部における低未利用地の有効活用や集約化に向けた基礎的知見を得ようとするものである。評価できる点は、第一に、福井市の中心市街地を含む中心部630haの登記簿情報を網羅的に入手し、土地の所有状況をデータベース化し分析して、市中心部の土地所有状況を見事に明らかにしたことである。第二に、アンケート調査を実施し、土地活用や所有意識を明らかにしたことである。学術的に評価できるだけでなく、実際の中心市街地再生が期待できる知見を導き出している。

論文名	朝鮮市街地計画令と台湾都市計画令の特長に関する研究
著者	五島 寧
授賞理由	本研究は、戦前の植民地の都市計画法令が内地より先進的であったとされる評価に対し、朝鮮市街地計画令と台湾都市計画令を分析対象としその検証を試みたものである。評価できる点は、第一に、対象国における戦前期の広範な1次資料の収集と精緻な分析を行なっている点があげられる。第二に、それらの立案過程と概要、建築・都市計画法令の一体化や規定の特長、戦後における韓国・台湾両国内での使用状況を明らかにすることで、既往の知見をくつがえすような新たな視点を提示しようとしている点であり、研究に対する意欲的な姿勢が評価できる。

論文名	福岡市におけるフードデザート問題の分析
著者	鳥海 重喜
授賞理由	本論文は、買い物弱者の増加、生鮮食料供給体制の崩壊を研究背景に、現状の生鮮食料品と高齢者に着目した人口の分布から福岡市のフードデザート問題を分析したものである。評価できる点としては、第一に、最寄りの店舗が撤退した場合、フードデザート地域の予備群としての準フードデザート地域を定義して、これをフードデザート地域とともに抽出する手順を提案した点があげられる。第二に、フードデザート問題に対して、必要な施設数や施設の重要度を数理計画問題として評価する方法を提示しており、実用上の有効性を期待できる点があげられる。